

基本目標 2 次代を担う子どもたちを安心して育てるために

施策 04 子ども・子育て家庭の支援

目的

＜対象＞子ども（出生前を含む）、子どもの保護者
 ＜意図＞子どもが健やかに成長できる、多様なライフスタイルに合わせて、安心して子どもを産み育てることができる

施策の方向

○子どもが健やかに成長し、だれもが安心して子どもを産み育てることができ、子育てを楽しく感じることができるよう、子育て支援サービスの充実を図るとともに、地域全体で支援し、子育てしやすいまちづくりを推進します。

施策の達成状況

まちづくり指標	基準値	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	目標値
子育てしやすいまちだと感じている市民の割合（下段：子育て支援サービスに満足している市民の割合）	34.2% (H26)	39.7% (53.1%)	34.2% (51.4%)	36.0% (54.1%)	- (51.9%)	- (50.6%)	50.0% (H30)
子ども家庭支援センターすこやかなどで児童虐待に関する相談を受け付けていることを知っている市民の割合	32.5% (H26)	32.2%	32.5%	33.2%	35.9%	36.0%	50.0% (H30)
保育施設整備率（各年度 4 月 1 日現在）	34.8% (H26)	34.0%	34.8%	38.6%	42.0%	43.5%	53.6% (H30)

その他の指標

- 子育て応援サイト「コサイト」の開設（平成 27 年 4 月）
- 子育てカフェを併設した子育て支援施設「こどもとフラット」の開設（平成 27 年 4 月）
- 妊娠期から子育てを応援する「ゆりかご調布」事業の開始（平成 28 年度）
- 認可保育園 19 園を誘致・開設し、約 1,500 人の定員を拡大（平成 27～29 年度）
- 学童クラブ 5 箇所を整備し、200 人規模の定員を拡大（平成 27～29 年度） など

■ 現状と課題

- 平成 27 年度から平成 31 年度までを期間とする「調布っ子すこやかプラン（調布市子ども・子育て支援事業計画）」については、保育に関するニーズ等を把握しながら、次期計画を策定し、子どもと子育て家庭を総合的に支援する事業を展開していく必要があります。
- 保育園待機児童対策については、現基本計画期間中（平成 27～30 年度）にこれまで認可保育園 19 園を誘致、開設し、約 1,500 人の定員を拡大してきました。一方で、新規申込者数も増えていることにより、平成 29 年 4 月時点での待機児童数は 312 人となっています。今後も、保育需要を見据えた待機児童対策に取り組んでいく必要があります。
- 東京都や関係部署と連携しながら、認可保育園と地域型保育事業所に対して実施している指導検査を継続していく必要があります。
- 虐待に関する相談は依然として多く寄せられているため、要保護児童対策地域協議会の枠組の中で、児童相談所、警察、医師会等の関係機関や地域との連携を深め、迅速かつ適切な対応が求められています。
- 平成 27 年 4 月に施行された児童福祉法の一部改正により、小学校 6 年生までの児童が学童クラブを利用できるようになり、学童クラブのニーズも年々増加傾向にあることから、地域によっては定員を大幅に超える申込みがある状況です。そのため、計画的に施設整備を進めるとともに、放課後子供教室事業ユーフォーとの一体的な運営を引き続き推進する必要があります。また、既存の学童クラブでは受入れが困難な障害児が利用できる学童クラブの整備を進めています。
- 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援について、各家庭の状況に応じた事業の利用支援や相談支援ができるよう体制整備を行うことにより、子育て世帯の不安を和らげる必要があります。
- 平成 28 年 6 月に施行された児童福祉法により、地方公共団体は、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児、いわゆる「医療的ケア児」の支援に関する保健、医療、障害福祉、保育、教育等の連携の一層の推進を図るよう努めることとされ、医療的ケアの支援体制を整備していく必要があります。

■ 次期基本計画策定に向けた主なポイント

- 子どもが健やかに成長し、だれもが安心して子どもを産み育てることができ、子育てを楽しく感じることができるよう、子育て支援サービスの充実を図っていく必要があります。
- 引き続き、保育ニーズを踏まえた待機児童対策の推進と保育の質の確保に努める必要があります。
- 年度限定型保育事業や企業主導型保育事業などの成果や、子ども・子育て支援ニーズ調査を踏まえ、次期調布っ子すこやかプラン（平成 32～36 年度）を策定する必要があります。
- 学童クラブについては、学童クラブとユーフォー事業との連携による一体的運営を推進しながら、条例基準を踏まえた計画的な学童クラブ施設の整備を行っていく必要があります。
- 子ども・福祉及び母子保健分野が連携した妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実を図る必要があります。
- 子どもの貧困の連鎖防止対策の充実と若者の自立支援の充実について、引き続き、子ども・子育て家庭の支援の枠を超えた取組を検討していく必要があります。
- 医療的ケア児の支援に関して、子ども・福祉・教育分野等における連携をより一層推進していく必要があります。

◆就学前児童人口

全国的に少子化が進む中、調布市の就学前の児童は平成 27 年度以降年々増加しています



資料：市民課「調布市の世帯と人口」

※就学前児童人口は、各年 4 月 1 日現在（外国人登録者含む）のもの

04-1 子育てが楽しくなるまちづくり

【まちづくり指標】子育てしやすいまちと感じている市民の割合

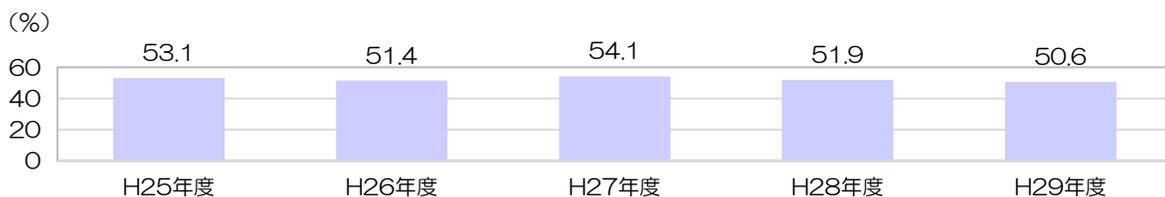
子育てしやすいと感じている市民の割合は 30%台にとどまっており、市民に実感頂くための取組が引き続き求められます



資料：子育て支援アンケート（子ども政策課）

◆子育て支援サービスに満足している市民の割合

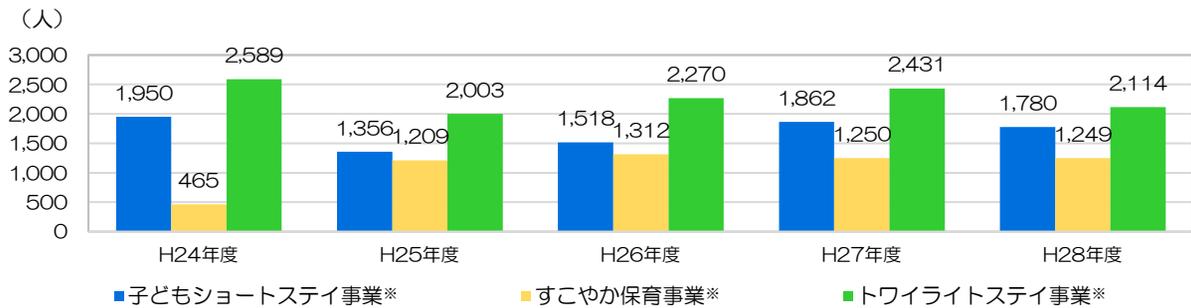
満足している市民の割合は、平成 27 年度以降やや減少しています



資料：調布市民意識調査

◆子ども家庭支援センター事業利用者数

3事業とも5か年の利用実績は概ね横ばい傾向で推移しています



資料：調布市事務報告書（子ども政策課）

※子どもショートステイ事業については、調布学園での利用者を含む

※子どもショートステイ事業：病気、出産、家族の看護、冠婚葬祭等で子どもの世話ができないときに、一時的に子どもを預かる事業

※すこやか保育事業：どのような理由でも、必要があれば子どもを預かる事業

※トワイライトステイ事業：仕事等で恒常的に保護者の帰宅が遅い場合に、午後5時から午後10時まで子どもを預かる事業

◆ファミリー・サポート・センター事業登録会員数、利用実績

平成25年度から、依頼会員は増加している一方で、協力会員は微増にとどまっており、サービス提供体制が課題です

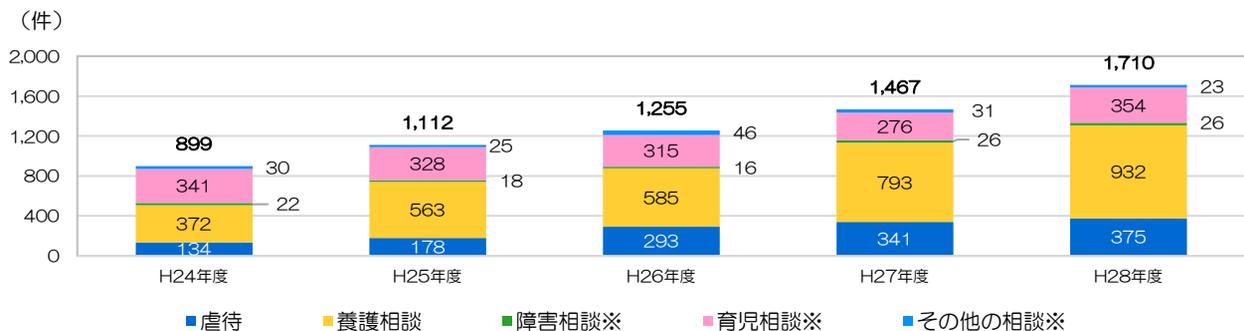


資料：調布市事務報告書（子ども政策課）

※依頼会員、協力会員は、両方会員を含む

◆子ども家庭支援センター相談内容・件数

全相談件数は増加傾向にあり、中でも虐待及び養護相談が増加しています



資料：調布市事務報告書（子ども政策課）

※障害相談：肢体不自由、視聴覚障害、言語発達障害等、重症心身障害、知的障害、自閉症等

※育児相談：保健、性格相談、育児・しつけ、適正相談

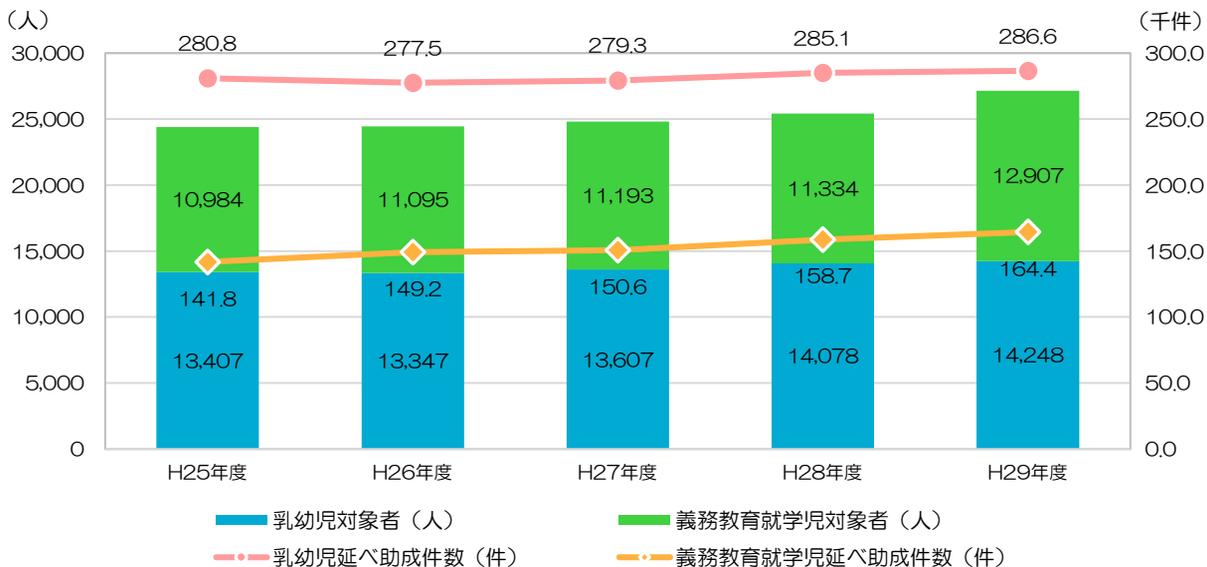
※その他の相談：く犯行為、触法行為、不登校、その他の相談

04-2

子育て家庭の支援

◆医療費助成対象者数・延べ助成件数の推移

いずれも横ばいから微増傾向が続いています



資料：子ども家庭課

◆予防接種の実施状況

4種混合及び日本脳炎Ⅰ期、ヒブ及び小児用肺炎球菌は接種率が100%を超えています

種別	通知者数	実施者数	接種率
4種混合Ⅰ期 (ジフテリア、百日せき、破傷風、不活化ポリオ)	1回目	1,950	105.4
	2回目	-	105.7
	3回目	-	106.3
	追加	2,075	100.6
3種混合Ⅰ期 (ジフテリア、百日せき、破傷風)	1回目	1,950	0.0
	2回目	-	0.0
	3回目	-	0.0
	追加	2,075	0.1
2種混合Ⅱ期 (ジフテリア、破傷風)	1,819	1,182	65.0
急性灰白髄炎Ⅰ期 (ポリオ)※不活化ワクチン	1回目	1,950	0.2
	2回目	-	1.0
	3回目	-	1.3
	追加	2,075	5.0
麻しん風しん混合	Ⅰ期	2,075	97.0
	Ⅱ期	1,935	90.5
麻しん	Ⅰ期	2,075	0.0
	Ⅱ期	1,935	0.0
風しん	Ⅰ期	2,075	0.0
	Ⅱ期	1,935	0.0

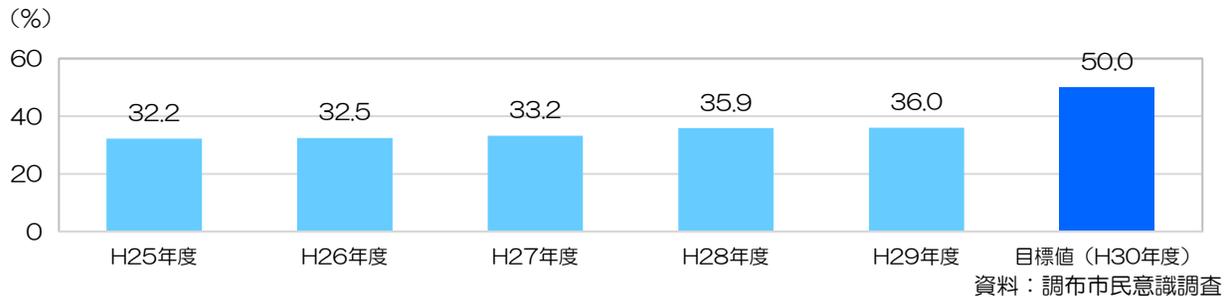
種別	通知者数	実施者数	接種率	
日本脳炎	Ⅰ期	1回目	1,924	113.2
		2回目	-	113.0
		追加	1,946	97.9
	Ⅱ期	1,825	86.4	
BCG	1,950	2,071	106.2	
ヒブ	1回目	1,950	106.1	
	2回目	-	105.9	
	3回目	-	105.8	
	追加	2,075	94.9	
小児用肺炎球菌	1回目	1,950	106.1	
	2回目	-	105.9	
	3回目	-	106.3	
	追加	2,075	98.0	
水痘	初回	2,075	97.7	
	追加	2,075	90.1	
B型肝炎	1回目	2,062	76.9	
	2回目	2,062	67.8	
	3回目	2,062	23.3	

資料：調布市事務報告書（平成28年度）（健康推進課）

04—3 子どもの健やかな成長の支援

【まちづくり指標】 子ども家庭支援センターすこやか*などで児童虐待に関する相談を受け付けていることを知っている市民の割合

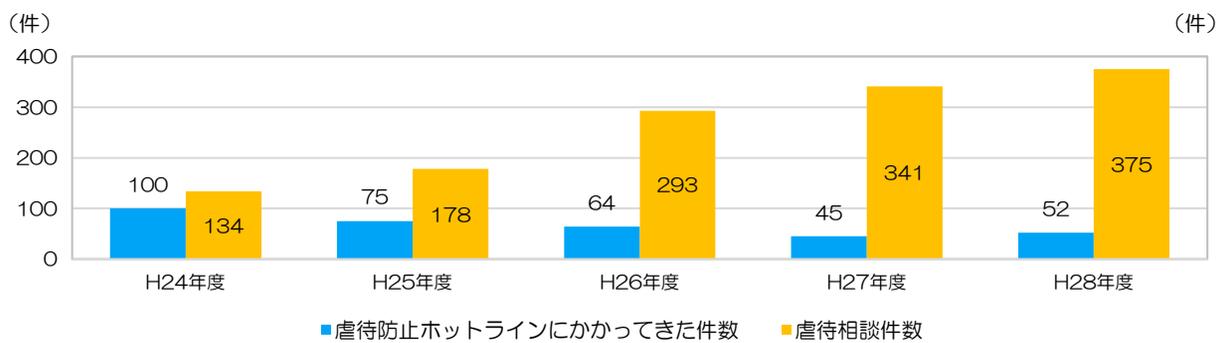
子ども家庭支援センターすこやかなどで児童虐待に関する相談を受け付けていることを知っている市民の割合は、年々微増しています
目標達成に向け、更なる周知啓発が必要です



※子ども家庭支援センターすこやか：子育てを応援する施設であり、交流事業や保育事業、相談事業等を行っている

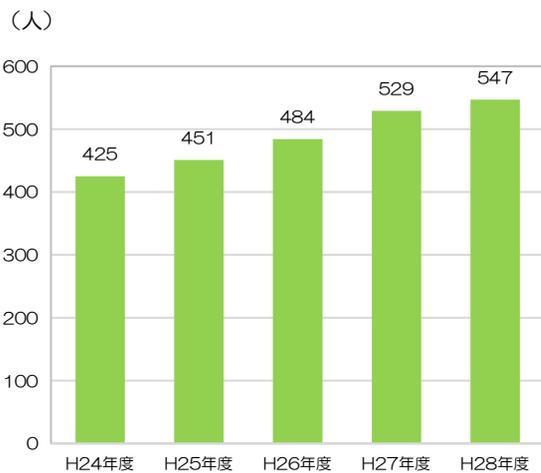
◆児童虐待防止センターにおける対応状況

相談件数は年々増加しています



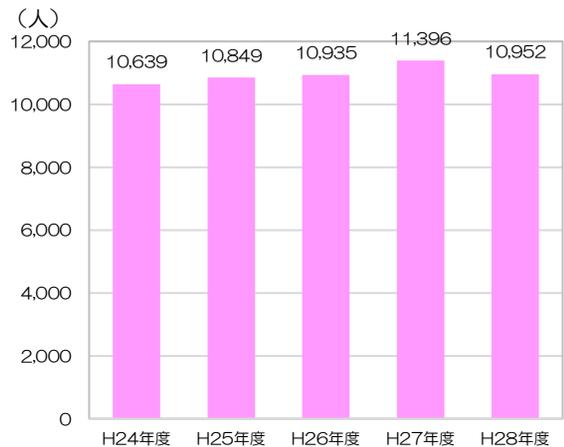
◆子ども発達センター在籍児童

在籍児童は年々増加しており、支援が必要な児童が増えています



◆子ども発達センター支援数

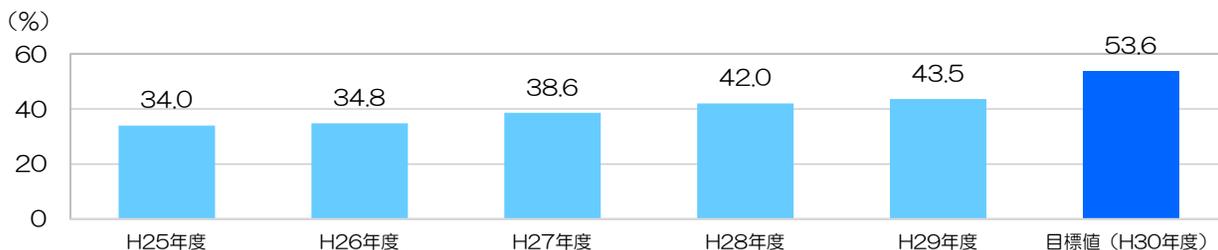
支援数は横ばいとなっています



04-4 保育サービスの充実

【まちづくり指標】 保育施設整備率*

施設整備が年々着実に進んでおり定員数は拡大していますが、同時に就学前児童数も増えており、保育施設整備率が計画どおり進捗していない状況です



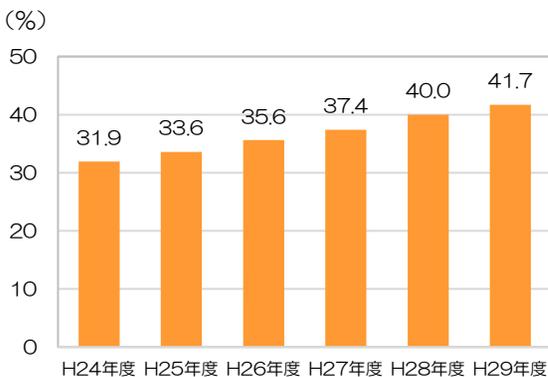
資料：調布市行政評価

※保育施設整備率：就学前児童人口に対する公的保育サービスの定員割合

◆就学前児童人口比率*

経年比較

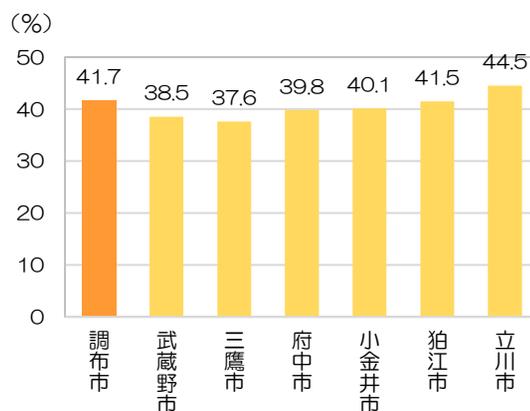
就学前児童人口に対する保育サービス利用率は、就学前児童人口と同様に増加しています



資料：東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課
「都内の保育サービスの状況について」

平成 29 年度比較 (4 月 1 日)

調布市は近隣自治体の中で 2 番目に就学前児童人口比率が大きくなっています

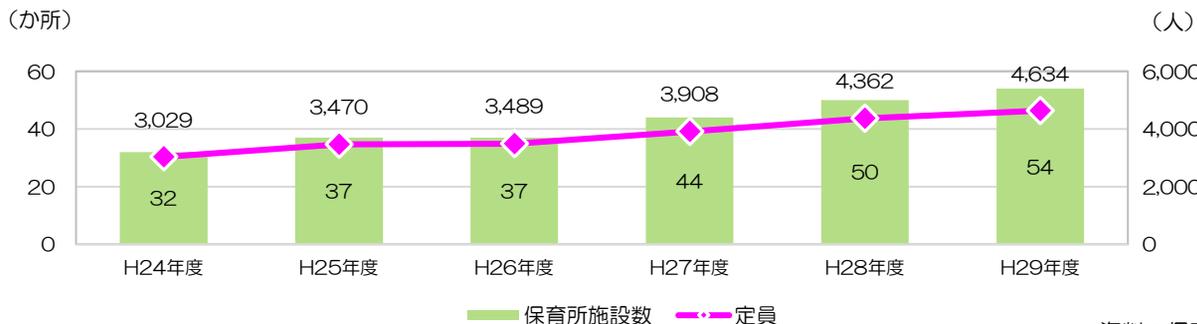


資料：東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課
「都内の保育サービスの状況について」

※就学前児童人口比率：保育サービス利用児童数を就学前児童人口で除した割合

◆保育所施設数及び保育所の定員

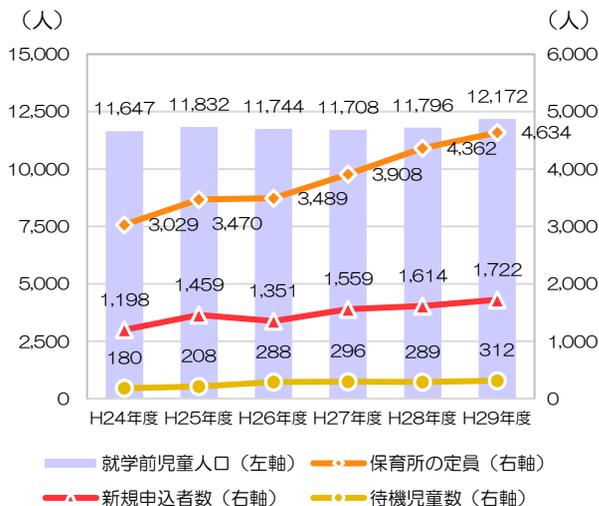
保育施設数は年々増加し、それに伴い保育所の定員も増加しています



資料：保育課

◆認可保育所の定員・入所児童数・待機児童数

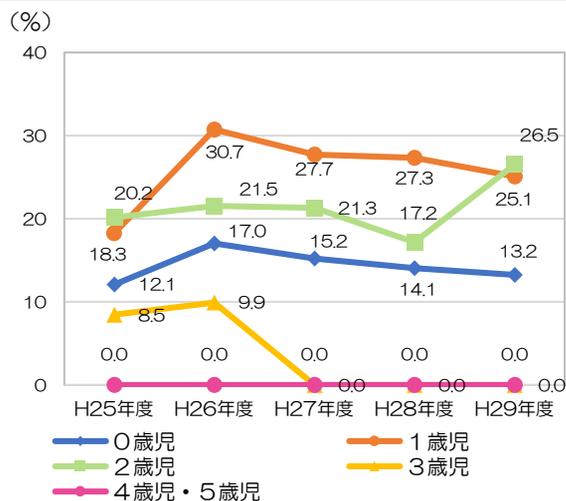
保育所の定員が増加する一方で、認可保育所の新規申込者数も年々増加し、待機児童数は近年横ばいとなっています
今後も待機児童数減少への対策が必要です



資料：保育課

◆年齢別保育所待機率*

平成 29 年度は、2 歳児が最も待機率が高く、3、4・5 歳児は待機が発生していません

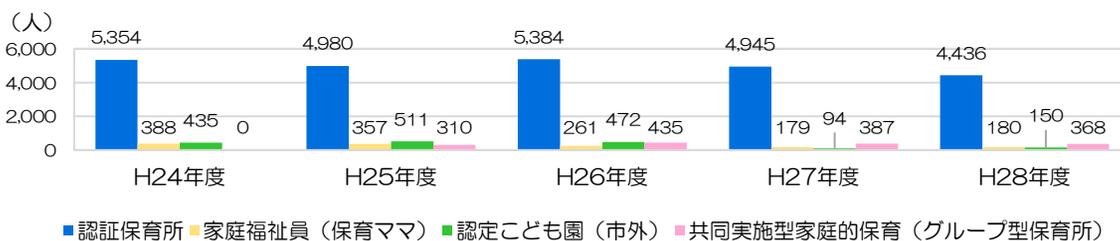


資料：保育課

※保育所待機率：保育所入所待機児童数を保育所への入所申請がなされており入所条件を満たしている人数で除した割合

◆認可保育所以外の保育サービスの利用状況

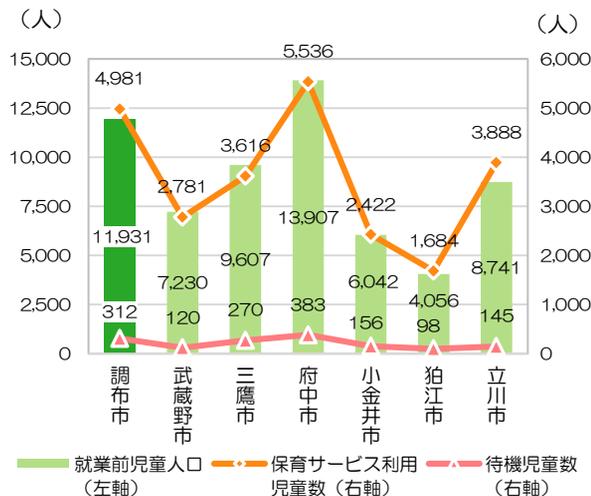
平成 26 年度から、利用者数は減少傾向にあります



資料：調布市事務報告書 (保育課)

◆近隣市の認可保育所の定員・入所児童数・待機児童数 (平成 29 年度比較)

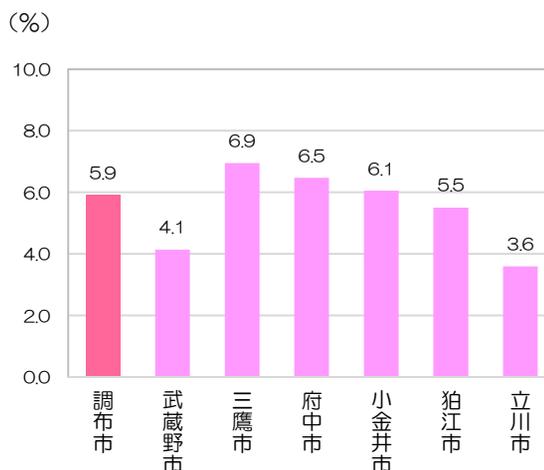
調布市は保育サービスを利用している児童が近隣自治体の中で 2 番目に多く、待機児童数も 2 番目に多くなっています



資料：東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課「都内の保育サービスの状況について 保育所入所待機児童数」

◆保育所待機率 (平成 29 年度比較)

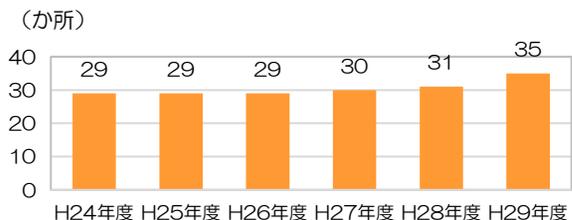
調布市は 4 番目に待機率が高くなっています



資料：東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課「都内の保育サービスの状況について 保育所入所待機児童数」

◆学童クラブ数の推移（各年度 4 月 1 日現在）

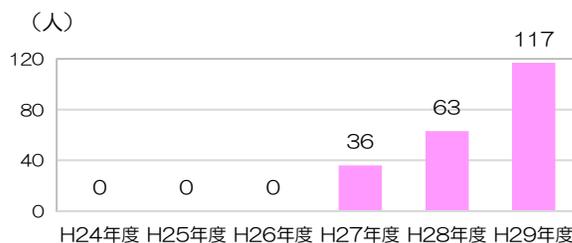
1 小学校区に 1 学童クラブを設置したため、学童クラブ数は増加しています



資料：児童青少年課

◆学童クラブ入会保留児童数

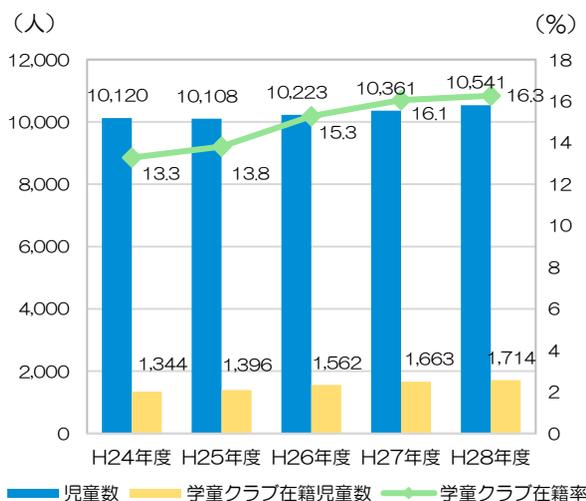
平成 26 年度までは入会保留児童はいませんでしたが、平成 27 年度から発生し、年々増加しています



資料：児童青少年課

◆学童クラブ利用状況

児童数は年々増加傾向にあり、学童クラブの在籍率も増加しているため、今後も学童クラブのニーズ増加が見込まれます



資料：調布市事務報告書（児童青少年課）
東京都総務局統計部人口統計課「学校基本統計（学校基本統計調査報告書）」

※児童数は各年 5 月 1 日現在、学童クラブ在籍児童数は各年 4 月 1 日現在

多様な主体との連携事例

「こどもとフラット」の運営支援

調布駅南口東地区の市街地再開発事業によって得られた市権利床を、子育て支援施策における行政課題への対応とともに、賑わいの創出を図る目的で、市内の NPO 法人と社会福祉法人が一体的に運営する子育て支援施設（カフェ、一時預かり及び定期利用保育施設、子育てひろば）として、両法人に無償で貸し付けています。調布駅前という利便性から、市内の多様な子育て支援団体等からの情報が集まる為、行政では得ることができない情報も含め、市と法人とで様々な情報交換を行い、イベント等実施の際は周知活動へも協力しています。

【所管課】

子ども生活部 子ども政策課

【協働のパートナー】

社会福祉法人 調布白雲福祉会（プレイセンターちょうふ運営者）、特定非営利活動法人 ちょうふ子育てネットワーク・ちょこネット（カフェ「aona」運営者）



<プレイセンター調布の様子>